

「保健医療科学」  
第61巻 第2号 予告

**特集：地域包括ケアシステムを巡る諸課題と国際的な動向**

巻頭言にかえて 地域包括ケアシステムの構築に関する政策動向 (仮題) .....	宮島俊彦
診療報酬・介護報酬同時改定の動向からみた地域包括ケアシステムの推進 (仮題) .....	堀裕行
地域包括ケアシステムの支援基盤づくりにおける課題 (仮題) .....	筒井孝子
地域包括ケアシステムにおける自助・互助の課題 (仮題) .....	松繁卓哉
地域包括ケアシステムにおける高齢者の住まいの考え方 (仮題) .....	井上由起子
地域包括ケアシステムを利用した認知症早期診断システムの推進 (仮題) .....	栗田主一
地域包括ケアシステムに必要なとされる人材の考え方 (仮題) .....	森川美絵
地域包括ケアシステムの構築を推進するための多様なサービス提供体制 (仮題) .....	大冢賀政昭
フランスの在宅医療の現状と日本の地域包括ケアシステムへの示唆 (仮題) .....	M. A. TERRADE
オランダにおける community-based integrated care の展開と課題 (仮題) .....	T. PLOCHG

**編集後記**

睡眠は、生活習慣の一部であるとともに、多臓器の機能と深く関り、健康の保持及び増進にとって不可欠な要素である。睡眠不足や睡眠障害など睡眠に関する問題は、全ての年齢層・社会集団の生活の質に大きく影響を及ぼす。また睡眠障害は、抑うつや高血圧・耐糖能異常（糖尿病）などの発症・増悪要因になることが知られ、身体的・精神的な健康の直接的規定要因としても重要な位置を占める。メタボリック症候群とも密接な関連を有するものとして着目されている。

近年、こうした観点から健康政策・公衆衛生における睡眠問題の重要性が認識されるようになり、世界各国において様々な取り組みが始まっている。わが国では「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）」において、睡眠は心の健康を担う重要な要素であると位置づけており、平成15年、厚生労働省生活習慣病対策室が「健康づくりのための睡眠指針検討会報告書」を公開している。また平成14年には、日本睡眠学会による睡眠医療認定制度が発足、平成23年には同学会と財団法人精神・神経科学振興財団により睡眠健康推進機構が組織されている。加えて、産業保健・労働衛生の分野においても、事故防止や労働生産性低下の問題のみならず、勤労者の健康障害・過労死の要因として産業精神保健（メンタルヘルス）上の大きな課題とされるに至っている。しかしながら、睡眠問題に関する政策的取り組みは、未だ十分なものではないとの指摘も多い。

こうした背景を踏まえて本号では、睡眠に関する国内外の知見を総覧して、本問題の現状、科学的知見、政策的な取り組み、さらに今後の課題を紹介することを意図した。現在、そして今後ますます重要な位置を占める睡眠の問題について改めて考え、公衆衛生的視点からの研究の進展、また問題解決への取り組みが充実したものになるための一助となれば幸いである。

（政策技術評価研究部 佐藤元）